

媒体名：朝日新聞

日付：2007年3月1日



ブラジルへ日本人移民が渡って100周年を迎える来年、同国サンパウロ市で「千人太鼓」が披露される。礼節に重きを置き、音だけでなく、間を大切にする太鼓を通じ、自分たちのルーツに触れるきっかけになれば、現地の日系人々が企画。千人の奏者を集めている。その指導のため、日本から4人の和太鼓奏者が28日、ブラジルへ出発した。(柄崎太郎)

移民100周年を迎えるブラジル

「千人太鼓」が披露されるのは、08年6月にサンパウロ市で開催される「ブラジル移民100周年記念式典」。和太鼓の親ばく団体「日本太鼓連盟」(港区)の協力で、3年前に発足した「ブラジル太鼓協会」が企画し、現在約500人の奏者を確保したという。

同連盟は28日、4人の和太鼓奏者をブラジルに派遣。サンパウロ市のほか、日系人が多く住むマリンガ市、ソロカバ市を1カ月かけて回り、式典で披露され

千人の太鼓 え響け

る曲「絆」を指導する。

その1人、日系米国人で杉並区在住の影山伊作さん(25)は、04年と昨年も太鼓集団「天邪鬼」の団員として、ブラジルを訪れ、日本人を指導してきた。

米国サンフランシスコ市生まれ。6歳の時、ギター奏者だった日系3世の父親のバンド仲間から和太鼓を習った。

中学時代にデトロイト市に転居。アジア系住民は少なく、米国籍を持つているのにアメリカ人とみなされないと驚いた。

一方で、日本人と名乗つても、当時は野球のイチロー選手のまち在米国中に影響力を持つ日本人がいなかつた。「自分は何人なの」という問いに答えてくれたのが和太鼓だったという。

「太鼓は日系人にアイデンティティーを与え、ブランドを持って各国で生きていいく支えになる。太鼓を通じて日系人が自分のルーツに触れるきっかけになれば」と影山さん。

指導する影山さん「自分のルーツ触れて」

和太鼓の指導のためブラジル訪問する影山伊作さん(25)、練馬区南田中5丁目

(有)太鼓集団天邪鬼

〒177-0035 東京都練馬区南田中5-9-11-101

TEL:03-3904-1745 FAX:03-3904-9434 E-Mail: taikoshudan@amanojaku.info

<http://amanojaku.info>